

石井としひろの「館山市政かわら版」

(令和元年11月21日発行)

敏 宏

館山市議会議員

復旧に失敗している館山市



1、情報が市民に行き届かなかった理由

①台風15号以降に出せなかった市政報告(原稿は11月17日時点の情報に基づいて記載)

9月9日の被災後、ずいぶん経過しての市政報告書になってしまいましたが、その理由は、復旧状況・現在の課題・支援内容が刻々と変化するなかでは、原稿を書いた時点と市民の皆様が届く間に、一昔前の話になってしまうからです。この折り込みチラシも原稿完成から新聞に入るまで通常は1週間近くかかるわけで、その間がらりと状況が変わるのがこれまででした。ただ、このチラシもタイムラグを短縮したとはいえ、原稿完成から市民の皆様が届く間が4日ほどあり、その間に変更があるかも知れません。むしろ、改善されて変化があるのであれば望ましいことであり、若干、情報が古くなっている点をご容赦いただきたいと思います。

ちなみに、ツイッター・フェイスブック・ブログを使ったインターネットの情報発信は毎日のように行ってきました。ネットであればすぐに情報を出せますし、状況が変わっても訂正が容易だからです。

それを見た毎日新聞の記者が私のところに取材に来て、『千葉 館山 ボランティアセンター閉鎖(11月1日付・全国版)』『館山市、災害ごみ受け入れ停止(11月9日付・千葉版)』の2本の記事が掲載されるきっかけとなったこともありました。



②回覧など紙での情報提供が遅れた理由

館山市役所もインターネットではそれなりに情報発信をしていたわけですが、広報紙「だん暖たてやま」の被災支援情報も貧弱でしたし、チラシによる回覧配布もほとんどありませんでした。

ようやく、だん暖たてやま11月15日号で支援情報が充実してきましたが、それまでの2か月間は明らかに情報提供不足でした。その理由はおそらく、私のチラシと同じように、状況の変化により、的外れな情報提供に

なってしまうのを怖れたのだと思います。あと、決定が遅れ、回覧に間に合わなかったと思われるケースもありました。

2、災害ごみの受け入れ停止問題

①回収依頼は10月18日までで、仮置き場での受け入れが10月27日で終了

いきなり10月15日の防災無線によって、「災害ごみの回収依頼は10月18日で打ち切り、出野尾の仮置き場への搬入も10月27日で打ち切り」というアナウンスがありました。これもインターネットを見ている人は対応できるわけですが、そうでない人の方が多いわけで、こういう大事なことは前もって回覧で告知しなくてはダメです。告知が間に合わないなら、打ち切りのタイミングを遅くしてでも、回覧での告知を行うのが常識です。



写真にあるように、まだ市内ではいたるところに災害ごみがあります。

毎日新聞の記事には私のコメントも載りました。記事には『石井敏宏市議は「現場感覚のない対応だ。ニーズが多い段階の締め切りは早すぎるし、告知も不十分だった」と指摘。処理費用については国庫補助金があるものの1割は市町村負担となることから、「市には費用が膨らむことへの心配もあるのだろうが、支援する側の都合で打ち切ってはいけない」と話した。』と掲載されています。

一応、館山市では10月27日以後は「災害ごみで通

常受け入れ可能な物は罹災証明等の提示の上で自己搬入ならば処理費は無料」としてはいますが、富津市や君津市では受け入れている瓦・外壁材などの処理困難物を受け入れないのが問題です。また、自分で持ち込めない高齢者のことなども配慮されていません。

富津市や君津市の場合は、自己搬入できない人のケアも考えているので、これを習って災害ごみ仮置き場を再開すべきだと思います。

3、ボランティアセンター閉鎖という問題

① ボランティアセンターも災害ごみ回収依頼は10月18日で打ち切り、その他全ての依頼も10月20日で受付停止

社会福祉協議会（社協）が主体となった館山市ボランティアセンターも被災者からの依頼を10月20日で全て受付停止にしたあげく、唐突に10月27日で閉鎖してしまいました。

社協がボランティアセンターを閉鎖してしまった公式発表の理由は支離滅裂ですが、市民からのブルーシート張り・がれき撤去・ビニールハウス解体などのニーズが多すぎて対応できなくなって閉めてしまったのだと思います。

一応、南房総市・鋸南町などの近隣自治体はニーズがあらかた片付いたという建前で災害ボランティアセンターを閉じたわけですが、館山市の場合は市民のニーズを放り投げる形で終了となったわけです。

そもそも回覧で告知をしていませんから、ボランティアに頼めたことすら知らず、またボランティアに頼めなくなったことを終わった後に知った人も多いのです。

館山市は財政も悪く、職員数も不足しています。だから、ボランティアをもっと活用すべきです。もともと、平時でもボランティアセンターを作るべきだという議論はあったので、改めてボランティアセンターの再開を望みます。

まだ館山市で活動してくれているボランティア団体もありますが、災害ごみ受け入れ停止と、拠点となるボランティアセンターが閉鎖してしまったことにより、活動に支障をきたしています。実際のところ、市と社協が市民の復旧の足を引っ張っている状態です。

4、復旧に失敗している館山市

① もともと貧弱な国と県の支援

日本は、「自助・共助で頑張る」という自己責任の国であり、逆に言うと、被災弱者を見捨てる弱肉強食の国です。基本的な考えとして「私有財産に公金はなるべく入れない」というものがあるので、国と県による被災者の生活再建のための支援金は貧弱です。

そして、過去の大災害の歴史を振り返ると、被災弱者はずっと見捨てられ続けます。このままでは、おそらく館山市も同様に復旧失敗の歴史を繰り返すでしょう。

だから、本来であれば、市はそれを補う支援金制度を作るべきですが、財政難と支援制度を作る人員が足りないことにより、独自策を打ち出せていない状況です。

であるならば、災害ごみの撤去に力を入れることと、

ボランティアの活用をしっかりとやるべきですが、実際には逆のことをやって被災者を苦しめています。

② 現場感覚の欠けている館山市役所と社協

私は被災後から時間があれば、ずっとボランティア活動をしていました。

最初は館山地区公民館で物資配りをしていました。

物資配布が終了した後は富崎地区のボランティアセンターに行ってガレキ撤去を主に行いました。

また、社協のボランティアセンターにも行きまして、市内の至る所で作業をしてきました。

作業をしてきた目的は、もちろん労働力で少しでも役に立ちたいという面もあるのですが、最大の理由は「現場感覚」と「被災者視点」を失いたくなかったからです。

残念ながら、現在の市役所も社協も「現場感覚」と「被災者視点」を失い、「単なる事務処理」と「支援者目線」になっているように見えます。

確かに、国と県から市でこなすように示された支援メニューだけでも膨大な仕事量があり、職員はそれに加えて災害対応以外の平常業務もあり、あまりに激務で被災者支援がうまく行かないのもわかります。しかしながら、もう少し「現場感覚」と「被災者視点」を持って欲しいと思います。また、不要不急の平常業務をやり過ぎて仕事が回らなくなっているようにも見えます。被災者支援を最優先で、業務の「集中と選択」を行って欲しいと思います。



石井としひろ 略歴
昭和47年2月26日生まれ。
館山二中、安房高、立教大学法学部卒業。平成23年4月に館山市議会議員に初当選。



<発行者> 石井敏宏

〒294-0038 館山市上真倉320-2

TEL&FAX: 0470-23-7738

携帯: 090-1557-5515

メール ishiitoshihiro1@gmail.com

ブログ <http://ameblo.jp/ishiitoshihiro/>